

1 題材名 楽曲に合った表現

2 題材の目標

音楽を形づくっている要素の働きとその働きが生み出す雰囲気を感じ取り、楽曲に合った表現をしたり、表現のよさを味わいながら聴いたりする。

3 主な〔共通事項〕

ア 旋律（音のつながり方、旋律の方向性、フレーズのまとまり、旋律の緊張と弛緩の関係、旋律と歌詞との関わり）、強弱

4 題材設定の意図

本題材は、中学校学習指導要領第1学年内容A(1)「ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと」と第1学年内容B「ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと」と関連している。本題材では、鑑賞の学習を通して、音楽を形づくっている要素（以下、要素と示す。）の働きによって曲の雰囲気が変わること気付いたり、その気付きを生かし、表現の学習において、要素の働きを生かして歌ったりすることをねらいとしている。

本学級の生徒（男子**人、女子**人、合計**人）は、歌唱で表現する活動において、自分なりの考えをもって歌っていると答えている生徒が多い。しかし、自分なりの考えの根拠となる要素やその働きに目を向けることができていない。また、自分なりの考えをどのように歌唱で表現したらよいか分かっていないことが分かった。そこで、要素やその働きに目を向け、それらを基に工夫して表現できるようにしたい。

指導に当たっては、鑑賞の学習において、要素の働かせ方が違う2種類の「浜辺の歌」を比較鑑賞する。そして、要素の働かせ方によって生み出される曲の雰囲気の違いを感じ取れるようにする。この鑑賞の学習を生かし、表現の学習では、要素の働きとその働きが生み出す雰囲気を基に表現を工夫することで、楽曲に合った歌唱表現ができるようにする。その際、自分たちで考えたことを実際に歌って試すなど、試行錯誤する活動を行う。その中で、よりよい表現の方法を見いだしたり、必要な技能を習得したりできるようにしていきたい。このような活動を通して、歌唱表現の違いやよさを味わいながら鑑賞したり、楽曲に合った歌唱表現をしたりする生徒を育てていきたいと考え、本題材を設定した。

5 教材について

「花の街」（江間章子作詞 團伊玖磨作曲）
 「浜辺の歌」（林 古溪作詞 成田為三作曲）

6 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
①「花の街」の歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気に関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ②「浜辺の歌」の旋律、強弱の働きと曲の雰囲気との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。	①旋律や強弱を知覚しそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞の表す情景や心情、曲想を感じ取っている。 ②感じ取った歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気を基に曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。	①歌詞の表す情景や心情、曲の雰囲気を生かした音楽表現をするのに必要な発声、日本語の発音、呼吸法、読譜の仕方などを身に付けて歌っている。	①「浜辺の歌」の旋律や強弱を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取りながら旋律、強弱の働きと曲の雰囲気との関わりを感じ取って、価値を考え、言葉で説明するなどして、音楽表現のよさを味わって聴いている。

7 学習活動と評価の計画（5時間扱い）

次	ねらい	主な学習活動	〔共通事項〕	題材の評価規準
第1次(1)	○旋律の働きやその働きが生み出す雰囲気に気付く。	・音の動きに着目しながら楽譜を読んだり、歌ったりする。	旋律	アー①
第2次	○要素の働かせ方やそれ	・旋律の働かせ方の違う2種類の「浜辺の歌」を	旋律	アー②

(1)	によって生み出される曲の雰囲気の違いから、歌唱表現のよさを味わって聴く。	鑑賞する。 ・要素の働かせ方や曲の雰囲気の違いを感じ取り、それぞれの歌唱表現のよさについて自分の考えを書く。	強弱 ↓	エー①
第3次 (3)	○要素の働きやその働きが生み出す雰囲気を基に表現の工夫をすることで、楽曲に合った歌唱表現にする。	・「花の街」にふさわしい表現にするための工夫について考える。		イー①
		・第1次で録音した自分たちの演奏を聴く。 ・楽曲に合った表現をするためのよりよい表現の方法を見付ける。		イー②
		・楽曲に合った表現をするためのよりよい表現の方法を見付ける。 ・自分たちの「花の街」を歌唱で表現する。		イー② ウー①

8 本時の学習【第1次・第1時】

(1) 目標

- ・音の動きに着目しながら「花の街」を歌うことを通して、旋律の働きやその働きが生み出す雰囲気に気付く。

(2) 準備物 拡大楽譜 付箋 ワークシート 学習カード

(3) 展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ(◆評価規準)		
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">「花の街」の旋律の特徴を見付けよう。</div> <p>2 旋律の特徴を見付ける。</p> <p>(1) 「花の街」をLaで歌う。</p> <p>(2) 旋律の特徴を聴き取ったり感じ取ったりする。 〈予想される生徒の反応〉 旋律の特徴</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・31小節に長くて一番高い音がある。 ・26小節から段々に音が高くなる。 ・34小節から段々に音が低くなっている。 ・小節の頭に八分休符がある ・音の高さが急に高くなったり低くなったりしない。 ・長調 </td> <td style="width: 50%; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・広がりを感じる。 ・段々に気持ちが高まっていく感じがする。 ・段々に消えていく感じ。 ・勢いがつく。 ・滑らかな感じ。 ・明るい感じ。 </td> </tr> </table> <p>(3) 「花の街」を歌詞唱する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旋律の特徴を確かめる。 ・歌詞から作詞者の思いや情景を感じ取る。 ・旋律と歌詞を結び付けて旋律の見付ける。 <p>〈予想される生徒の反応〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・31小節に長くて一番高い音がある。 ・26小節から段々に音が高くなる。 ・34小節から段々に音が低くなっている。 ・小節の頭に八分休符がある ・音の高さが急に高くなったり低くなったりしない。 ・長調 	<ul style="list-style-type: none"> ・広がりを感じる。 ・段々に気持ちが高まっていく感じがする。 ・段々に消えていく感じ。 ・勢いがつく。 ・滑らかな感じ。 ・明るい感じ。 	<p>・「校歌」を歌い、授業の雰囲気作りをする。</p> <p>・曲の全体像をつかめるようにするために、まず教師が伴奏を演奏する。</p> <p>・強弱の表記や、歌詞のない楽譜を提示しLaで歌うことで、音の動きに着目できるようにする。</p> <p>・楽譜に旋律線を記入することで、旋律を視覚的に捉えることができるようにする。</p> <p>・第3次の表現を工夫する活動の手掛かりとなるように、自分で気付いた旋律の特徴を付箋に書いて楽譜に貼ったり、話し合いを通して分かった旋律の特徴を楽譜に書き込んだりする。</p> <p>・小節の頭に八分休符があることに生徒が気付いた時に、休符がある場合とない場合の旋律を例示し歌ってみることで、八分休符によってフレーズが生まれることやその働きを感じ取れるようにする。</p> <p>・明るい感じと生徒が気付いた時に、教師が短調の旋律を例示することにより、調性とその働きに気付けるようにする。</p> <p>・歌詞が書いてある楽譜を配布し歌詞唱することで、同じ言葉の繰り返しなどを手掛かりに、旋律と歌詞を結び付けて旋律の特徴を感じ取れるようにする。</p> <p>・作詞者の思い、歌詞の表す情景について話し合ったり、教師が補足的な説明をしたりすることで、生徒がより歌詞の内容の理解を深められるようにする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・31小節に長くて一番高い音がある。 ・26小節から段々に音が高くなる。 ・34小節から段々に音が低くなっている。 ・小節の頭に八分休符がある ・音の高さが急に高くなったり低くなったりしない。 ・長調 	<ul style="list-style-type: none"> ・広がりを感じる。 ・段々に気持ちが高まっていく感じがする。 ・段々に消えていく感じ。 ・勢いがつく。 ・滑らかな感じ。 ・明るい感じ。 		

旋律の特徴

- 同じ言葉が繰り返されているところは、音の動きが似ている。
- 同じ言葉でも、音が上がっていくところと下がっていくところがある。
- 気持ちが盛り上がるところは、音が上がっていく。
- 気持ちの違いによって音の動きが変わっている。

3 旋律の特徴をまとめる。

- 〈予想される生徒の反応〉
- 音の高さが急に変化しないので全体的に滑らかな感じがする。
 - 歌詞の内容に合った長調の旋律で、明るく希望に満ちた感じがする。
 - 小節の頭に八分休符があるから、前へ進んでいく感じがする。
 - 段々に盛り上がり広がっていき段々に消えていく感じがする。

4 次時のめあてをつかむ。

2つの「浜辺の歌」を聴き比べよう。

- 生徒の演奏を録音し、第3次の学習で課題を見付ける際に活用できるようにする。

- 2の活動で話し合った内容や板書などを参考にして、旋律の特徴について自分の考えをワークシートに記入するよう、指示する。

- ◆ 「花の街」の歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気に関心をもち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。
ア①（活動の様子、発言、ワークシート）

- 旋律の働きとその働きが生み出す雰囲気を基に、楽曲に合った表現をするために、次時は、どのような表現の工夫ができるのかを鑑賞の学習から見付けていくこと伝えることで、学習への見通しが持てるようにする。

【第2次・第1時】

(1) 目標

- 要素の働かせ方が違う二つの「浜辺の歌」を比較鑑賞することを通して、要素の働かせ方による曲の雰囲気の違いを感じ取る。

(2) 準備物 CD ワークシート 学習カード

(3) 展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ(◆評価規準)
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>2つの「浜辺の歌」を聴き比べよう。</p> <p>2 旋律や強弱の働かせ方の違う「浜辺の歌」を比較鑑賞する。</p> <p>(1) A, Bの「浜辺の歌」の演奏を聴き、違いを見付ける。 〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> • AとBは歌い方が違う。 • Aはゆれている感じがする。 • Bは曲の盛り上がりがはっきりとしている。 • Bは滑らかな感じがする。 <p>(2) 気付いた違いほどの要素の働かせ方によって生まれたのかを考える。 〈予想される生徒の反応〉</p> <p>A B</p> <ul style="list-style-type: none"> • ゆれている感じ!・曲の一番の盛り 	<ul style="list-style-type: none"> • 既習曲の「浜辺の歌」を歌い、どのような感じの曲であったかを確認し、本時は2つの表現を聴き比べることを伝え、本時の学習の見通しが持てるようにする。 • Aは「一つ一つの音の長さを変えて揺れを大きくして歌っている演奏」Bは「歌詞のまとめりごとに歌っていて、旋律の流れが滑らかな演奏」で、この二つの演奏を聴き比べる。 • それぞれの演奏の違いへの気付きを繰り返し鑑賞することで確かめ、全員で共有できるようにする。 • 生徒が見付けた違いを基に、「ゆれている感じや滑らかな感じがするのはどうしてか」、「曲の盛り上がり分かるのはどうしてか」など、具体的に投げかけることで、旋律や強弱の働かせ方に違いがあることに気付けるようにする。 • AやBの歌い方を模倣することで、具体的にどのように

<p>がするのは、一つ一つの音の長さが違うからだ。</p>	<p>がりが分かるのは、強弱が付いているからだ。 ・曲に切れ目がない感じがするのは、フレーズを大きくしているからだ。</p>	<p>旋律や強弱を働かせているのか、ということに気付けるようにする。</p>
<p>3 それぞれの演奏から曲の雰囲気を考える。 〈予想される生徒の反応〉 A ・一つ一つの音の長さを变更后、強弱の差を余り付けずに歌っているの、たくさんさざ波がくような浜辺の様子が思い浮かぶ。</p>	<p>B ・強弱の差をはっきりと付けて、旋律を流れるように歌っているので、広い浜辺の様子が思い浮かぶ。</p>	<p>・A、Bそれぞれの演奏を聴いて、「どのような浜辺の様子が想像できるか」また「どうしてそのような浜辺を想像したのか」を考えることで、旋律や強弱の働かせ方と曲の雰囲気を結び付けて感じ取ることができるようにする。</p> <p>◆「浜辺の歌」の旋律や強弱を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、旋律、強弱の働きと曲の雰囲気との関わりとを感じ取って、価値を考え、言葉で説明するなどして、音楽表現のよさを味わって聴いている。エー①（発言、ワークシート、付箋）</p>
<p>4 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 〈予想される生徒の反応〉 ・同じ曲でも、強弱のつけ方で、曲の雰囲気が変わることが分かった。 ・旋律の歌い方を変えることで、曲の雰囲気が変わることが分かった。</p>		<p>・次時からは、「花の街」にふさわしい表現をするために、どのような表現の工夫ができるのかを考え、工夫しながら歌っていくこと伝え、これからの学習への見通しが持てるようにする。</p> <p>◆「浜辺の歌」の旋律、強弱の働きと曲の雰囲気との関わりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 アー②（活動の様子、発言、ワークシート）</p>

【第3次・第1時】

(1) 目標

- ・「花の街」の旋律の働きやその働きが生み出す雰囲気から、表現の工夫について考えることを通して、表現に対する自分の考えを持つ。

(2) 準備物 拡大楽譜 拡大歌詞カード ワークシート 学習カード

(3) 展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ（◆評価規準）
<p>1 本時のめあてをつかむ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「花の街」にふさわしい表現をするための工夫について考えよう。</p> </div> <p>2 二つの「浜辺の歌」の表現のよさについて話し合う。</p> <p>〈予想される生徒の反応〉 A ・一つ一つの音の長さを变更后歌うことで、穏やかな浜辺の様子を想像することができた。</p> <p>B ・フレーズを大きくして歌うと大きな波が押し寄せてくる感じがした。 ・曲の盛り上がるころを考え、そこをフォルテで歌うとはっきりと伝わってくる。</p>	<p>・「花の街」の歌詞唱から、「どのように歌ったら曲に合った歌唱表現になるのか」と投げかけることで、本時の学習の見通しが持てるようにする。</p> <p>・前時の学習を振り返り、それぞれの「浜辺の歌」の表現の特徴やどのような浜辺を思い浮かべたかを確認する場を設け、それぞれの歌唱表現のよさを話し合うことで、要素の働きとその働きが生み出す雰囲気とのかかわりを確かめ、本時の学習につなげられるようにする。</p> <p>・前時の学習を振り返ることにより、二つの「浜辺の歌」にはそれぞれどのような要素の働かせ方の特徴があるのかを確認できるようにする。</p>

- 3 「花の街」にふさわしい表現をするための工夫について考える。
- (1) 「花の街」の旋律の働きとその働きが生み出す雰囲気を確認する。
- 〈予想される生徒の反応〉
- ・八分休符は、歌詞の句読点の部分にある。
 - ・リズムが同じ部分がある。
 - ・「わになって」のところは、2回目に音が高くなっているのので、広がっていく感じがする。
 - ・「かけていったよ」のところは、最初は音が上っていくが、2回目は「はるよ」を2回繰り返しながら音が下がっていくので、風が吹き抜けていく感じがする。

- (2) 表現の工夫について考える。
- 〈予想される生徒の反応〉
- ・八分休符のところまでは、一息で歌いまとまりが分かるようにしたい。
 - ・同じ言葉を繰り返すところは、強弱をつけて変化を出したい。
 - ・「わになって」の2回目は、広がる感じがするように、1回目よりも大きく歌いたい。
 - ・1回目の「かけていったよ」はクレッシェンドしていき「はるよ」でだんだん小さくしていくことで、吹き抜けていく感じを出したい。速さも変えてみたい。

4 次時のめあてをつかむ。

表現の方法を見付けよう。

- ・第一次の第1時での学習を振り返り、自分たちの気付いた旋律の働きとその働きが生み出す雰囲気について確認する。
- ・拡大の縦書き歌詞カードを提示し、旋律の特徴を、楽譜からだけでなく歌詞からも捉えることができるようにする。
- ・曲の一番の山場では、どのように登っていく感じなのかを旋律の働きと歌詞内容とをかかわらせて感じ取れるようにする。
- ・歌詞が同じ箇所では、音の動きと合わせて考えることで雰囲気を感じ取れるようにする。
- ・実際に歌うことで、旋律の働きとその働きが生み出す雰囲気とのかかわりを感じ取れるようにする。

- ・「花の街」の旋律の働きやその働きが生み出す雰囲気にあった表現にするためには、どのような工夫ができるか、自分の考えを学習カードに書くことにより、次時の学習につなげたい。

◆旋律や強弱を知覚しそれらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、歌詞の表す情景や心情、曲の雰囲気を感じ取っている。
イー①（活動の様子、発言、ワークシート）

- ・「花の街」にふさわしい表現をするために、それぞれが考えた表現の工夫を試しながら活動していくことを伝え、次時の学習への見通しが持てるようにする。

【第3次・第2時】

(1) 目標

- ・表現に対する考えを基に、試行錯誤しながら歌う活動を通して、「花の街」にふさわしい表現をするための表現の方法を見付ける。

(2) 準備物 拡大楽譜 ワークシート 学習カード

(3) 展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ(◆評価規準)
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <p>(1) 第1次で録音した自分たちの演奏を聴く。</p> <p>〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滑らかな感じがしない。 ・強弱の変化がない演奏だ。 ・言葉が分からない。 <p>(2) 本時の活動について話し合う。</p> <p>表現の方法を見付けよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第1次で録音した「花の街」の演奏を聴き、気付いたことを話し合い、自分たちの演奏の課題として、どのような表現の工夫が必要かを見付けられるようにすることで、学習への見通しが持てるようにする。 ・旋律の働きとその働きが生み出す雰囲気から、「花の街」にふさわしい表現にするためには、どの部分を工夫して表現すればよいか話し合い、工夫するところを具体的に示す。
<p>2 表現を工夫して歌う。</p> <p>(1) 表現の工夫について話し合ったり、試したりする。</p> <p>○「音の高さが段々高くなっ ; ○「音の高さが段々低くなっ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時では26小節から33小節まで、34小節から38小節までの箇所を絞る。

<p>ていき、段々に広がっていく感じ」 (26小節から33小節まで)</p> <p>〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段々大きくしていけば、広がった感じが出ると思う。 ・フレーズのまとまりごとに声を大きくしていくと、広がっていく感じが表現できると思う。 ・「輪になって輪になって」は2回同じ言葉を繰り返すので、2回目は大きく、そして出だしの「わ」をはっきりと歌うとよいと思う。 ・「かけていったよ」は広がりを出すために、駆け上がる感じを出したいから、八分音符は早めに歌いたい。 ・「かけていったよ」の前の八分休符は、素早く息を吸わないと駆け上がれない。 <p>(2) 録音する。</p>	<p>ていき、段々に消えていく感じ」 (34小節から38小節まで)</p> <p>〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段々小さくしていけば消えていく感じが出ると思う。 ・フレーズのまとまりごとに声を小さくしていくと、消えていく感じになると思う。 ・「春よ春よと」は、旋律が下に向かっているのので、2回目の「春よと」は1回目よりもゆっくり歌うと段々消えていく感じなると思う。 ・2回目の「は」はちょっと長めに歌うとよいと思う。 ・2回目の「かけていったよ」は、風が消えていく感じだから、八分音符を一つ一つ歌っていくようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように表現したらよいのか、前時に考えたことを基に、全体で話し合う場を設け、そこで出された意見を全体で歌って試しながら活動が進められるようにする。 ・高い声の出し方やブレスの仕方などについて気が付いた点があればその都度発表させ、全体で共有できるようにする。 ・歌詞を朗読することを通して、同じ言葉の繰り返しをどのように表現するかを考え、話し合いの場を設けることで、強弱を付ける以外の旋律の表現の仕方も考えられるようにする。 ・生徒の演奏を録音し、自分たちの表現を確認するとともに、更に曲にふさわしい表現にするためにはどうしたらよいかを話し合い、次時への課題を見付けられるようにする。
<p>3 本時のまとめを行う。</p> <p>〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段々広がっていく感じを出すために、フレーズのまとまりごとに段々声を大きくしていく。 ・段々声を小さくして歌うと、消えていく感じが表せることが分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の活動から、各自ワークシートに「段々広がっていく感じ」「段々に消えていく感じ」を表現するために、どのように歌えばよいかを書くことで、自分の思いや意図を明らかにできるようにする。 <p>◆感じ取った歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気等を基に曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 イー②（活動の様子、発言、ワークシート）</p>	

【第3次・第3時】

(1) 目標

- ・楽曲に合った表現の方法で、自分たちの「花の街」を表現する。

(2) 準備物 拡大楽譜 ワークシート 学習カード

(3) 展開

学習内容と主な学習活動	教師の働きかけ(◆評価規準)
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分たちの「花の街」を表現しよう。</p> </div> <p>〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと滑らかな方がよい。 ・音が急に高くなる時に切れている感じがするので、音がつながる感じにしたい。 <p>2 表現の工夫をする。</p> <p>〈予想される生徒の反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くの音に動くことが多いので、滑らかな感じがする。 ・春を知らせる風なので、穏やかに流れていく感じがする。 ・フレーズの終わりの音をしっかり伸ばして歌った方がよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に工夫したことを確認し、「花の街」を歌うことで、更に「花の街」にふさわしい表現にするためにどのような工夫が必要かを考えることで、本時の学習へとつなげていきたい。 ・第1次で感じ取った「滑らかな感じ」を表現するために、「滑らかさはどこから感じたのか」を問うことで、表現の工夫を考えたり、試したりすることができるようにする。 ・歌詞の朗読をすることで、日本語の抑揚やアクセントを確認するとともに、促音にも着目させ、フレーズの中で

- ・フレーズのまとまりを意識して一息で歌うとよいと思う。
- ・フレーズが途切れないように、八分休符のところでしっかり息を吸って歌うとよいと思う。
- ・語尾を強く歌うと流れが途切れてしまうので、語尾の音は少し弱く歌うようにしたらよいと思う。
- ・「なないろのたにをこえて」のところは、音読してみると「な」と「た」と「こ」にアクセントが付くので、それを意識して歌うと、音の動きが滑らかになると思う。
- ・八分休符の後の言葉にアクセントを付けると、フレーズの入りがスムーズになり、フレーズ全体も滑らかになると思う。

3 本時の学習のまとめとして、演奏を録音し、第1次の演奏と比較する。

〈予想される生徒の反応〉

- ・強弱があり、段々広がって段々消えていく感じが出た。
- ・八分休符の後の言葉をはっきりさせたことで、フレーズのまとまりが分かるようになった。
- ・フレーズを一息で歌ったり、言葉のもつアクセントを意識したりしたことで、より滑らかな感じになった。

の一音一音ごとの強さ、発音の仕方や、促音の発音について考え、話し合う場を設け、表現の工夫ができるようにする。

- ・高い声の出し方、ブレスの仕方などについて気が付いた点があればその都度発表させ、全体で共有できるようにする。その際に、教師が試唱することにより、フレーズが滑らかに表現できるようにする。

- ・活動を通して見つけた滑らかに歌うための方法について、各自ワークシートに書くことで、自分の思いや意図を明らかにして表現できるようにする。

◆感じ取った歌詞が表す情景や心情、曲の雰囲気を中心に曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。

イー②（活動の様子、発言、ワークシート）

- ・第1次の時の演奏と本時の演奏を比較して聴き、どのように表現が変わったのかを話し合うことで、「花の街」にふさわしい表現をするための表現の方法について確認できるようにする。

◆歌詞の表す情景や心情、曲の雰囲気を生かした音楽表現をするのに必要な発声、日本語の発音、呼吸法、読譜の仕方などを身に付けて歌っている。

ウー①（活動の様子）